

「風流踊」ってなに？

無形文化遺産となった「風流踊」

2022（令和4）年11月、国連教育科学文化機関（ユネスコ）は、日本各地に古くから伝わる41の「風流踊」を「無形文化遺産」の代表一覧表に記載することを決めました。

「風流踊」は、はなやかな衣装を身につけ、唄や笛、太鼓などを使ったお囃子に合わせて、にぎやかに踊る民俗芸能*です。

現存する日本最古の歌集『万葉集』では、「風

流」と書いて「みやび」と読み、「宮中の洗練された美しさ」を指す言葉でした。そこから「はなやかな」「人目を引く」という意味で使われるようになりました。風流踊は、はなやかで人目を引く風流の精神をあらわした踊りです。

*民俗芸能：各地域の住民たちが、地域でのくらしのなかで育てて伝えてきた演劇や踊り、音楽、さらにそれらの要素をそなえた儀礼や祭りなど。

ユネスコの無形文化遺産の代表一覧表に記載された「風流踊」一覧

ながい だいにんぶつけんばい 永井の大念仏剣舞	もりおか し 岩手県盛岡市	あとべ おど ねんぶつ 跡部の踊り念仏	さくし 長野県佐久市
おにけいばい 鬼剣舞	きたかみ し おうしゅう し 岩手県北上市、奥州市	にいの ぼんおどり 新野の盆踊	あなんちよう 長野県阿南町
にし も ない ぼんおどり 西馬音内の盆踊	うごまち 秋田県羽後町	わごう ねんぶつおどり 和合の念仏踊	あなんちよう 長野県阿南町
け まない ぼんおどり 毛馬内の盆踊	かづの し 秋田県鹿角市	くじょうおどり 郡上踊	くじょうし 岐阜県郡上市
おごうち かしまおどり 小河内の鹿島踊	おくた ままち 東京都奥多摩町	かのみず かけおどり 寒水の掛踊	くじょうし 岐阜県郡上市
にいじま おおどり 新島の大踊	にいじまむら 東京都新島村	とくやま ぼんおどり 徳山の盆踊	かね ほんちよう 静岡県川根本町
しもひらい ほうおう まい 下平井の鳳凰の舞	ひ で まち 東京都日の出町	うとうぎ ぼんおどり 有東木の盆踊	しずおか し 静岡県静岡市
チャッキラコ	みうらし 神奈川県三浦市	あやど よねんぶつ ぼんおどり 綾渡の夜念仏と盆踊	とよた し 愛知県豊田市
やまきた みねい 山北のお峰入り	やまきたまち 神奈川県山北町	かって じんじや しんじおどり 勝手神社の神事踊	いがし 三重県伊賀市
あやこまい 綾子舞	かしわざき し 新潟県柏崎市	おうみ こなん おど 近江湖南のサンヤレ踊り	くさつ し りつとうし 滋賀県草津市、栗東市
だい さか 大の阪	うおぬまし 新潟県魚沼市	おうみ まつ なぎなた ふ 近江のケンケト祭り長刀振り	もりやまし こうかし 滋賀県守山市、甲賀市、 ひがしおうみ し りゅうおうちよう 東近江市、竜王町
むしょうの だいにんぶつ 無生野の大念仏	うえの はらし 山梨県上野原市		

きょうと ろくさいねんぶつ 京都の六斎念仏	きょうと し 京都府 京都市	あやこおどり 綾子踊	ちよう 香川県まんのう町
やすらい花	きょうと し 京都府 京都市	たきのみや ねんぶつおどり 滝宮の念仏踊	あやがわちよう 香川県綾川町
くた はながさおどり 久多の花笠踊	きょうと し 京都府 京都市	かんのうがく 感応楽	ぶぜんし 福岡県豊前市
あま ふりゅうおおどり こおどり 阿方の風流大踊小踊	みなみ し 兵庫県 南あわじ市	ひらど 平戸のジャンガラ	ひらど し 長崎県平戸市
とつかわ おおどり 十津川の大踊	とつかわむら 奈良県十津川村	おおむら おきた おどり くるまるおどり 大村の沖田踊・黒丸踊	おおむら し 長崎県大村市
つわの やさかじんじや さぎまい 津和野弥栄神社の鷲舞	つわの ちよう 島根県津和野町	つしま ぼんおどり 対馬の盆踊	つしま し 長崎県対馬市
しらしおどり 白石踊	かさおか し 岡山県笠岡市	のぼらはちまんぐうふうりゅう 野原八幡宮風流	あらし 熊本県荒尾市
おおみやおどり 大宮踊	まにわし 岡山県真庭市	よしひろがく 吉弘楽	くにさき し 大分県国東市
にしい や じんだいおどり 西祖谷の神代踊	みよし し 徳島県三好市	ごかせ あらおどり 五ヶ瀬の荒踊	ごかせ ちよう 宮崎県五ヶ瀬町

呪術・儀礼から娯楽へ

風流踊の多くは、厄よけや雨ごい、農作物の豊作祈願のお祈り、死者の供養をするための念仏がもとになっています。それらに、はなやかな衣装やお囃子、舞、踊りなどが加わり、地域の歴史や風土に合わせて独自に変化してきました。よって、風流踊には決まった型と

いうものはありません。風流踊は、室町時代には各地でさかんになりました。とくに、江戸時代のはじめごろの1604（慶長9）年、豊臣秀吉の7回忌を記念したお祭りで行われた風流踊がよく知られています。



狩野内膳の作品とされる『豊国祭礼図屏風』（豊国神社蔵）には、豊臣秀吉の7回忌を記念したお祭りがえがかれています。町衆が輪になって風流踊を踊っているようすが見とれます。

けまない ぼんおどり 毛馬内の盆踊

●秋田県鹿角市



おど どんな踊り？

「大の坂」は、大太鼓と笛のお囃子にのって踊り、「甚句」は音がなく、唄だけで踊ります。「大の坂」と「甚句」を踊ったあと、最後に「じょんから」と呼ばれる踊りを少し踊って終わります。「じょんから」は、明治時代に弘前（青森県）の陸軍連隊に入隊した兵によって伝えられたもので、唄に合わせて踊ります。



現在の会場となっている「毛馬内こもせ通り」では、道のまんなかに数か所かがり火がたかれ、そのまわりを踊り手がかこんで、輪になって踊ります。踊り手はつねに内側（かがり火のほう）を向きます。

とくちょうてき いしよう ほおかぶりが特徴的な衣装

踊り手の衣装は、男性は水色のけだしの上に紋付の着物、女性はとき色（黄色がかつたあわい桃色）のけだしの上にとめそでの着物です。また、着物の裾をはしよって帯にとめ、黄色いしごき（飾り帯）を巻き、豆しぼりの手ぬぐいでほおかぶりをして踊ります。



豆しぼりのほおかぶり

しごき（飾り帯）

裾をはしよる

けだし（男性は水色、女性はとき色）

白い足袋

「毛馬内の盆踊」は、秋田県鹿角市毛馬内地区で、少なくとも江戸時代なごころから行われてきた盆踊です。「大の坂」と「甚句」の2つの踊りが今に伝えられ、そのうち「大の坂」については、京都の念仏踊が起源という説があります。「甚句」は、戦国時代に南部信直が、鹿角に攻め入った安東愛季に勝利した際、毛馬内で兵の労をねぎらうために行われた「陣後踊り」が起源とされています。これらは日中戦争から第二次世界大戦のあいだに一時とだえていましたが、戦後に復活し、今に伝えられています。

日程 毎年8月21日～23日
場所 秋田県鹿角市 毛馬内こもせ通り

大の坂のはじまり

「大の坂」の踊りにはご先祖さまの供養の意味がこめられ、かつては唄がありました。新潟県の「大の坂」（28ページ）と同じ念仏踊が起源という説がありますが、はっきりしたことはわかっていません。

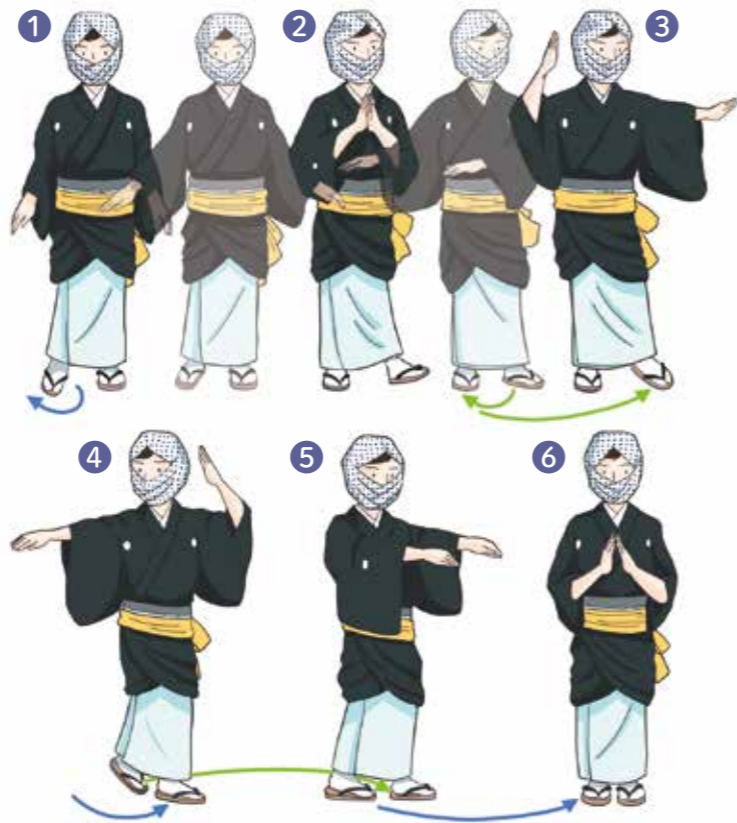


男性は水色のけだしを身につけ、女性と同じ黄色のしごきを巻く。

おど 踊ってみよう!

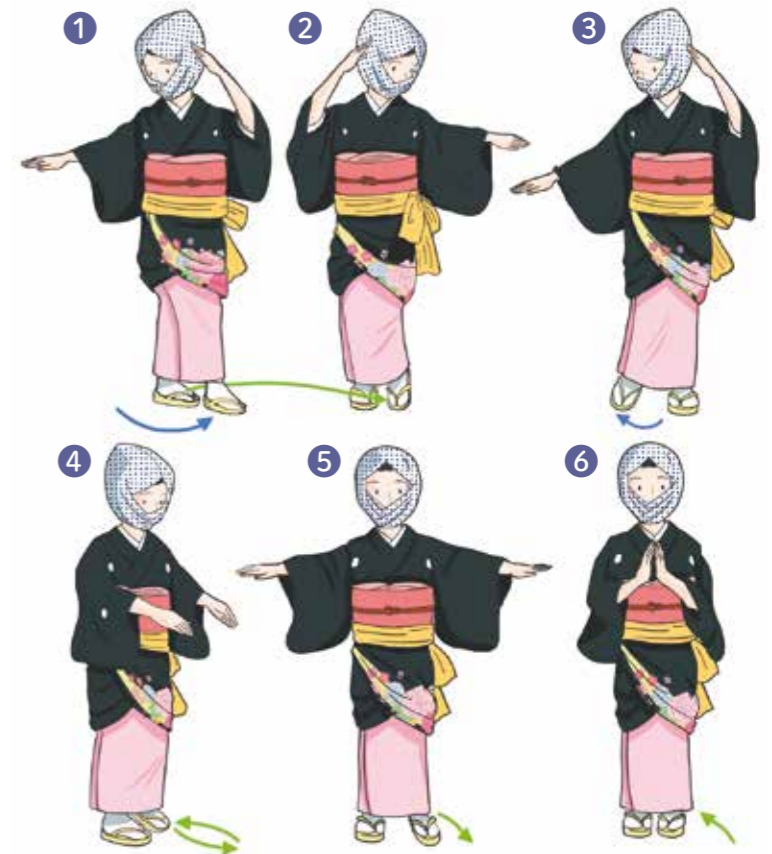
「大の坂」の踊り方

- ① 正面を向いて、右足で輪をえがく。
- ② 左足を前に出し、かかとを地面につけて、手を合わせる。
- ③ 右手を右上前方に振り上げ、左手を左に伸ばす。左足を右足のほうに引きよせ、すばやく左横へ開く。
- ④ 右足を左足の前に出し、左手を左上前方に振り上げ、右手を右に伸ばす。
- ⑤ 左右の手を外からまわして、前に投げ出すように伸ばす。左足を左前に出す。
- ⑥ 右足を左足のほうに引きよせ両足をそろえて手を合わせる。①にもどる。



「甚句」の踊り方

- ① 左手を頭のほうに振り上げ、右手を右に伸ばす。右足を左前にふみ出す。
- ② 右手を頭のほうに振り上げ、左手を左に伸ばす。左足を前に引き出す。
- ③ 左手を頭のほうに振り上げ、右手を右に伸ばす。右足を右に開く。
- ④ 両手をそろえて前に出し、左足を少し前に出して、後ろに引く。
- ⑤ 引いた左足を前に出し、両手を大きく開く。
- ⑥ 左足を後ろに引き、体を正面に向けて、手を軽くたたく。①にもどる。



一人が持ち上げ、一人が打つ大太鼓



「大の坂」を踊る際のお囃子に使われる「大太鼓」は、直径約1m、長さ約2m、重さが約30kgあります。打つときは二人がかりで行い、一人が太鼓を持ち上げ、もう一人が打ちます。

大太鼓の音は、会場の周囲4kmほどに響くとされ、盆踊りはじまったことを遠くまで知らせる役割もあります。

一般的な和太鼓は牛の皮で作られていますが、大太鼓は馬の皮を使います。馬の皮は高く澄んだ音が出るとされています。

毛馬内って どんなところ

- 秋田県鹿角市にある毛馬内地区は、城下町として栄えた町で、雪よけに建物のひさしを伸ばした「こもせ」と呼ばれる木製のアーケードのある町なみが特徴です。
- また、鹿角が発祥とされる「きりたんぼ」や、あん入り餅をすまし汁に入れた「けいらん」などの郷土料理が知られています。



こもせのある町なみ



けいらん



きりたんぼを使った鍋